

学習指導改善の取組

胎内市立築地小学校

1 当校の学力実態と基本方針

当校の児童は、基礎学力向上の取組により、単元テストやWeb診断問題等において到達目標を達成できるようになってきた。また、学習環境の整備や授業改善の取組により、各学年段階で身に付けるべき、「話す・聞く」、「読む」、「書く」などの基礎的スキルも、身に付きつつある。昨年度は、学級間で達成度の差や学年が上がるにつれて個人差が大きくなる傾向が見られた。こうしたことから、基礎的・基本的な学習内容の定着については、引き続き全校体制で取組を強化しているところである。

これまで「伝え合う力」の育成を目指して授業改善に取り組んできた。以前は、平均点を上回ることが難しかった全国学力・学習状況調査や学習指導改善調査でも少しずつ成果が表れるようになってきた。しかし、筋道を立てて考えたり根拠を明らかにして説明したりする力や、相手の考えと比べたり話し合いを通して自分の考えを深めたりする力については、まだ十分とは言えない段階である。今後も、基礎・基本の定着とともに思考力・判断力・表現力の育成にも力を入れていく必要がある。

こうした状況から、当校では、一人一人が自分の考えを分かりやすく説明したり、話し合いをとおして互いの考えを交流したりといった「言語活動の充実」を軸とした授業改善に取り組むことにした。また、前年度から取り組んでいる「活用力テスト」についても、読解力や記述力、論述力を鍛えるべく取組を継続することとした。

2 前年度の学習指導改善調査から見てきた課題

	各教科の課題
国語	<ul style="list-style-type: none">・ 課題の主旨、問われている内容が正しく読み取れず、題意をつかんでいない。・ 課題の説明の理解が不十分である。・ 段落の役割や働きを考えて、目的に合った段落構成ができない。 (指定された段落数で書けない。「まとめ」としての段落がきちんとかけない。など)・ 伝えたいことの本心が押さえられていない。
算数	<ul style="list-style-type: none">・ 課題の主旨、問われている内容が正しく読み取れず、題意をつかんでいない。・ 課題の説明についての理解が不十分で誤った答え方をしている。・ 順序立てて言葉で説明することができない。・ 算数の用語の意味を理解し、用語を使って説明することが難しい。・ 基礎的・基本的な知識・技能の習得が不十分なため、最後まで正しく答えを導き出すことができない。

3 研究主題と「育てたい子どもの姿」

<研究主題>

思いや考えを確かにし、分かりやすく伝え合う子の育成
—「言語活動の充実」を図る学習指導を通して—

<育てたい子どもの姿>

多様な言語活動をとおして、一人一人が、自らの考えを確かにし、友達と考えを比べたり、つなげたりしながら考えを深め、課題を解決する子

- ・ 3年生以上の学年で、国語、算数について実施。テスト実施後、解答、補充学習を行い、弱点補強や授業改善に努める。
- ・ 問題の形式は、「記述式」を中心とし、国語は、相手や目的、意図に応じて、自分の意見や理由、紹介、報告などを一定以上の文字数で記述する問題、算数は言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、解決の方法や理由などを筋道立てて説明する問題を基本とする。
 - ※ 問題の内容は、当該学年の指導目標、内容や授業との整合を図る。
 - ※ 問題の作成に当たっては、学習指導改善調査、全国学力・学習状況調査、Web 配信システム（発展・補充問題）や研修用図書として購入したワークシート集、「すこらe」（県小教研）や「全国学力・学習状況調査の調査問題を踏まえた授業アイデア例」（国立教育政策研究所）等を参考にする。
 - ※ 問題と併せて採点基準も作成し、結果を数値化、客観的に評価できるようにする。

5 今年度の学習指導改善調査の結果分析

- ・ 7月に4年生以上が同じ日に実施。
- ・ 当該学年だけでなく全職員で採点する。その後、結果を入力し、分析を行う。
- ・ 結果をもとに各学年で指導改善策を協議し、2学期以降取り組む。
- ・ 次年度以降の学力向上策、研究主題策定の際の資料とする。

6 考察

- ・ 前年度の結果を踏まえ、学習指導改善の取組を進めた結果、数値的には、前年度よりも向上が見られた。理由としては、基礎学力の向上や問題の読み誤りが少なくなったこと、指定された条件の中で記述できる児童が増えたこと、無答の児童が減ったことなどが挙げられる。しかし、前年度見られた課題が解決されたわけではない。児童の実態を的確に把握し、引き続き、思考力・判断力・表現力の育成に向けた指導改善策を継続していく必要がある。
- ・ 国語、算数において重点単元を設定し、言語活動の充実を目指した授業実践を行った。育てたい子どもの姿を各教科、単元の目標、内容に照らして評価した結果、十分達成している(◎)は、46.4%、概ね達成している(○)は、46.8%、不十分である(△)は、6.8%であった。○評価に留まっている児童が多く、言語活動の充実を目指した取組を一層進めていく必要がある。
- ・ 今年度から築地小授業モデルを作成した。子どもたちが自分の考えをもち、伝え合う場を設けることにより、目指す子どもの姿を具体化すべく授業実践に取り組んでいる。また、学習意欲の向上や学習習慣の定着、効果的な指導、達成状況の把握等についても成果が見られた。
- ・ 重点単元における授業実践では、「授業改善シート」による評価を行い、授業モデルの具体化が図られているか、効果的な指導が行われているか点検し、改善へとつなげた。1学期の結果では、十分達成している(A)が23.1%、概ね達成している(B)が71.1%、不十分である(C)が5.8%であった。項目ごとにみると、授業の導入部における学習課題の提示や学習の見通しについては、比較的评价が高いことが分かる。一方、授業の展開部において、根拠を明らかにして発表したり、子どもたち同士が考えを伝え合ったりする姿について、評価が低い傾向が見られた。